



宝永小だより

No.11

福井市宝永小学校
令和7年8月29日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

1学期後半スタート

8月27日(水)から、1学期後半が始まりました。夏休みが終わり、一回りたくましくなった子どもたちが元気に登校してきます。早速、校内に響く子どもたちの歓声で、学校に活気が戻ってきました。久しぶりに挨拶を交わした子どもたちは、元気な姿と、お手伝いや様々な体験をして自信に満ちあふれた笑顔を見せてくれました。

学校では、校内運動会や様々な教育活動を予定しています。熱中症対策をしながら、子どもたちにとって充実した学びの多い活動を実施していきたいと考えています。子どもたちが、笑顔で元気に学校生活を送ることができるよう、引き続き、保護者の皆様・地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

下記に、前号の「宝永小だより」に掲載できなかった、夏休み前の子どもたちの学習の様子を、ご紹介します。



＜ジャングルジムを塗り直しました＞

全校 にこフレ活動～ふれあい集会に向けて～ 7月15日(火)

ふれあい集会はにこフレ班で、地域(宝永地区)の歴史的な建物やお店などのいろいろな場所をめぐり歩き、地域(宝永地区)のすてきなところをたくさん見つける縦割り活動です。その中でも、地域(宝永地区)のお宝さんと直接触れ合う体験活動は、ふれあい集会のメインとなります。本年度は弓道体験、火おこし体験、ジャズ鑑賞体験など、全部で12の体験が準備されました。この日は、全校児童がにこフレ班ごとに集まり、11月14日(金)に開催されますふれあい集会の体験場所の候補を5つ、相談しながら決めていきました。6年生のリーダーを中心に、一人一人が体験したいと思う内容を言いながら互いの思いを尊重しつつ、第1希望から第5希望まで決めていくのは大変だったようです。5・6年生の子どもたちの中には、下級生のメンバーに対して「どの体験がしたい?」と聞き出そうとしたり、これまで体験してわかっていることを説明したりする姿が見られました。頼もしい限りです。高学年にもなれば、異年齢の集団の中で話し合っ折り合いを付けながら合意形成を図ってきた経験が積み上げられており、その集団の中で果たすべき役割を理解して行動できるように育っていると感じる瞬間でした。ふれあい集会の計画は始まったばかりです。今後の子どもたちの成長が楽しみです。



＜体験場所の候補を話し合っ選ぶ様子＞

3年生 育もう「思いやる力」 7月15日(火)

福井市キャリア教育プログラム事業の一環として、福井青年会議所の皆様による「ちからプログラム -思いやる力-」の授業が実施されました。子どもたちは、6月に「ちからプログラム -伝える力-」も取り組んでおり、今回は相手を「思いやる力」を育むためのプログラムに挑戦し、自分で見つけて自分でできる力や社会に貢献する力を養いました。

まず学級全体で、お手伝いの名前をできるだけたくさん出しました。多くの子どもたちは普段、家でやっているお手伝いを次々に挙げていました。その後、「大きくなったら、何になりたいですか」と問われると、「学校の先生」「お花屋さん」「ベビーシッター」などと発言していました。それを受けてゲストティーチャーが、家でご飯の手伝いのときに茶碗や箸を並べること、レストランでウェイターがお客さんの注文を受けることを例に挙げて、お手伝いと仕事は、「自分で見つけて、自分で考えて動く」と「みんなの役に立つ」という点で似ていることを子どもたちに提案しました。さらに、ゲストティーチャーは子どもたちに「お手伝いと仕事に大切なことは何か」と問いかけ、大切なことは『思いやり』です、と伝えました。最後に、子どもたちは夏休み中に新たに取組むお手伝いを一つ決めて、1週間毎日取組むことになりました。



＜大きくなったら、何になりたいですか＞

1週間毎日取り組んだ後 <親から子へ>

- ・普段出来ない花の水やりをありがとう。これからも続けてくれたら、うれしいです。
- ・ごはんをつくる際に材料を切ったり、ハンバーグをこねたり、色々と手伝ってくれたのでとても助かりました。

1週間毎日取り組んだ後 <子から親へ>

- ・ちゃんと水やりができたから、もっとやっていこうと思いました。
- ・この1週かん家のてつだいをし、少しお母さんにひまができたと思いました。これからもしたいです。

2年生「やさいってすごいな」の授業に臨む 7月16日(水)

この日、〇〇〇〇 栄養

教諭が来校し、2年生の子どもたちに「やさいってすごいな」という内容で、食に関する指導をしてくださいました。子どもたちは生活科の授業で、5月に自分が育てたい野菜を選び、プランターにその野菜の苗を植えて育てるとともに、観察を続けてきました。授業に臨んだ頃には、その野菜を収穫して家庭に持ち帰り、おいしく口にしていました。このようなこともあり、子どもたちは野菜を食べることの必要性について、自分事として考えることができていたようです。

まず、子どもたちは栄養教諭から「生活科で育てている野菜の名前を教えてください」と尋ねられると、「きゅうり」「なす」「ミニトマト」「オクラ」「えだまめ」「ピーマン」と、元気に答えていきました。その後、栄養教諭が野菜の写真を順々に提示すると、子どもたちは写真に合わせて「タマネギ」「にんじん」「白菜」「レタス」「キャベツ」などと答えました。子どもたちは中でも「こまつな」と「ほうれんそう」に苦戦をしました。栄養教諭がそれぞれの葉のイラストを添えて説明したことで、子どもたちは理解を高めていました。そして、子どもたちは栄養教諭が読み聞かせる紙芝居を通して、野菜を食べないと「目が見えにくい」「イライラする」「けがが治りにくい」「かぜをひきやすい」「肌がブツブツになる」「すぐに疲れる」などの症状が出ることを知りました。逆に、子どもたちは野菜を食べると「目が見えやすい」「けがが治りやすい」「かぜをひきにくい」「肌がすべすべになる」「疲れにくい」ことをしっかりと理解することができ、野菜を食べる必要性を強く感じていました。



<野菜の名前を答える場面>

<2年児童の感想> やさいにはいろいろなはたらきがあると知りました。これからはすききらいをせず、きらいなやさいでもがんばって食べようと思いました。やさいは体にかかせないものだと知りました。

夏休み中の教職員の学び

今年度の「進明中学校区 夏季合同研修会」は7月29日(火)に、宝永小学校・松本小学校・啓蒙小学校・進明中学校の教員が進明中学校に参集して開催されました。福井市安居中学校長 〇〇〇〇 先生から「主体的・対話的で深い学びの実践に向けてのポイント～子供の学びの見取りを生かした授業改善～」と題して、講演がありました。私たち教員は、「授業を見る目」と「単元をデザインする力」を育てていくことが大切で、「授業を見る目」では①子どもの学ぶ姿から授業を見る(=子どもの学びの事実を見取る)、②会話や活動以外の根拠(=表情の変化、視線、声のボリュームなど)を見取る、③授業終了後に見取ったことを解釈する(=見取ったことから子どもの学びを解き明かす)の3つがポイントになると、伝えられました。また、「単元をデザインする力」では①ワクワク感やちょいワクワク感のある課題設定、②問いの連続性、③問いについて対話を紡ぐ学習活動、④自分の学びの足跡を語ることでできる振り返りの4つを単元に盛り込んで、授業実践と省察を繰り返し努めることが授業力を高めるだろうと、助言を受けました。

講演後には参加者が小グループ(原則、4校の教員が1名以上ずつで構成)に分かれて、互い授業実践を語り、聴き合うラウンドテーブルが開催されました。普段触れ合うことのない他校の教員と対話し思索を深めていくことで、実践の背景や試行錯誤の歩みを捉え直し、日々の実践を問い直す機会になったのではないかと、感じています。

夏休み中には、他にも、福井県小学校教育課程研究集会や福井市教職員目的別研修や特別支援教育センター主催の研修などの多くの研修が開催され、本校の教職員も積極的に受講しました。また、各教職員が学んだ内容を他の教職員に伝達し、共有しています。今年度の本校のスクールプランにも、「教職員の自己研鑽と協働体制」を具体的な取組として掲げています。本校の教職員は、他にも、各自がいろいろな方法で資質向上をめざし、子どもたちのために、常に学び続けています。

*夏休み中、施設技師さんに本校のジャングルジムを塗り直していただきました。本たよりの最初にモノクロ写真を掲載しました。塗り直した色は、エメラルドグリーンです。ここでクイズです。塗り直す前のジャングルジムの色は何色だったでしょう(答えは、右下にあります)。

*8月11日(月・祝)に、学校開放委員会の皆様が、体育館のワックスがけをしてくださいました。日頃の使用により、白っぽくなっていた床でしたが、丁寧に作業をしてくださったおかげで、艶が蘇りました。猛暑の中の作業、本当にありがとうございました。

*公益財団法人 日本教育公務員弘済会福井支部様より、教育助成として、右記のように、「写真で分かる!日本の国土とくらし」など全11冊の学校教育図書を贈呈していただきました。活用させていただきます。

<クイズの答え> 黄色

